

執筆者紹介（掲載順）

荒武賢一朗 大阪市史料調査会調査員
西本 幸嗣 佛敎大学非常勤講師
大久保雅央 寝屋川市史編纂課文書調査員
山崎 善弘 花園大学非常勤講師
重岡 伸泰 茨木市史編さん室非常勤嘱託
北林 千鶴 貝塚市教育委員会社会敎育課古文書整理調査員
山形 隆司 (財)元興寺文化財研究所研究員
矢内 一磨 堺市博物館学芸課研究員
倉橋 昌之 堺市博物館学芸課研究員
上田 歩美 大阪歴史学会会員
斉藤 利彦 佛敎大学非常勤講師
岡田 光代 大阪府立大学経済学部助教授

「堺銀行文書」の魅力

佐藤政則

堺銀行は大阪府内の中堅銀行

堺市立中央図書館が所蔵する各種の古文書のなかに堺銀行に関わるものが多数存在した。いわゆる「堺銀行文書」である。堺銀行が、甲斐町大道で開業したのは明治二六年（一八九三）一月であった。その後、二〇年間の営業満期を翌年に控えた明治四四年（一九一）六月の株主総会において、事業継続を選ばず任意解散を決議した。解散手続きは円滑に進み、明治四五年（一九一二）一月、平穩に清算を終了した。

堺銀行の主要な歩みは表一に掲げた通りである。日清戦争の前年に開業し、戦後のブームに乗り、大阪支店、富田出張店を擁する公称資本金六〇万円の銀行に飛躍した。しかし大阪金融界を直撃した明治三四年（一九〇一）恐慌によって、堺銀行も大きな打撃を受けた。日露戦争が勃発する明治三七年（一九〇四）には、公称資本金を四〇万円に減資して損失金の補填を行ったが、戦後の不景気のなかで経営再建は容易ではなかった。営業満期が近づくとともに、株主や銀行役員間の対立が表面化し、さらに本店所在地が阪堺軌道会社の線路用地として収用されることになり移転・新築問題が浮上した。ついに株主から解散の声があがった。もっとも、破産に近いような追い込まれた解散ではなかった。その後の清算処理が円満に終結したように、余力をもった解散であった。

堺市には、堺銀行のほか、大西銀行（甲斐町）、指吸銀行（寺地町）、堺共立銀行（宿屋町）、堺貯蓄銀行（甲斐町）、

鹿嶋銀行（南旅籠町）などが存在した。堺銀行をこつした銀行と同じ「小銀行」とみなす見解もあるが（例えば『堺市史』第三巻、一一三四頁）、これには同意できない。明治一八年六月末における大阪府内の銀行群を示した表二をみてみよう。同表は、実際に払い込まれた資本金（払込資本金）のランキングである。当時、資本金（公称資本金）の徴収方法は、企業が資金を必要とする時に適時払い込む分割払込制が一般的であった。企業の実力をみるには妥当な数値である。同表によれば、堺銀行の規模は、府内第一四位にあり、中規模の範囲に入る。また堺市内のそのほかの銀行と比べれば相当な開きがあり、これらを一括するのは無理である。他方、堺市内の銀行で日本銀行大阪支店の取引先（明治三一年下期）になっているのは、堺銀行大阪支店と大西銀行の二行である。ただし大西銀行の日銀取引が限定されているのに対して堺銀行大阪支店はすべての日銀取引が認められており、これは立地と規模の差によるものであった（拙稿「明治三〇年代の日銀金融政策と岩崎弥之助」『地方金融史研究』第一七号、一九八六年）。このように堺銀行は、大阪府内の中堅銀行であり、堺を代表する銀行だったのである。

明治三四年（一九〇一）末の日本には、普通銀行だけで一八六七行の銀行が存在した。それが昭和二〇年（一九四五）末には六一行になっている。戦前の金融界は、昭和二年の金融恐慌が象徴するように極めて不安定なものであり、厳しい淘汰の世界であった。そして消滅した多くの銀行が、自らの生涯について語るべき経営史料を残せなかった。堺銀行もその一つだと、筆者は思っていた。かなり以前から堺銀行の存在を意識していたが、断片的な「営業報告書」以外に一次史料は残っていないと諦めていた。縁あって「堺銀行文書」の存在を知った。大変な驚きと心地良い感動であった。

「堺銀行文書」の特徴

「堺銀行文書」を構成する史料数は一七七点であるが、そのうち九点は書簡類などをまとめた綴りでこれらを紐解くと全体として三〇〇点を超える史料群となる。そこには広範囲で多様なものが含まれている。現存している銀行でも、果たしてこれだけ残せるかどうかが、そういう高いレベルの史料群である。全体的には、預金や貸出などの営業関係が薄く、株主や役員関係などの庶務関係が厚いという傾向がある。なかでも、以下の三つの系統に属する史料は、筆者が強い関心を寄せているものである。

経営動向に関する包括的な史料

堺銀行がどのような人々によって、どういう目的のもとに設立されたのかは「株式堺銀行設立願書・定款」、「株式会社堺銀行営業継続願書・定款」などが教えてくれる。経営の全体的動向を知るには「営業報告書」が基本的史料になる。時系列で揃っている「会議決議録（株主総会）」、「決議録（重役会等）」などは、意志決定のプロセスをみる上で極めて重要なものである。とくに「決議録（重役会等）」は、今日で言えば常務会ないし執行役員会の議事録に相当するものである。これらによって株主や役員間における、業務活動をめぐる考え方の相違、解散決議に至る意見対立などが追跡できる。また日常的な業務活動を知る上で「日誌」、「主任日誌」は貴重である。これは、庶務畑のいわゆる業務日誌に近いものであり、本店、大阪支店、富田出張店の「日誌」がある。本店の「日誌」はほぼ時系列で揃っている。明治三四年恐慌の勃発を伝える叙述は臨場感があった。さらに、ほぼ時系列で残っている大阪商業興信所の「号外」がある。当時、東京・大阪の景況や取引地方の経済動向を測るために利用されたのが、この商業興信所号外であった。時には、個別的な特定の調査にも商業興信所を使っており、日本銀行なども取引先銀行の調査に活用していた。

取引・営業関係の史料

これに属する史料は、当座（預金・貸越）、貸付、為替、小切手、コルレス、割引手形、約束手形、公債と万遍なくあるが、いずれも断片的であり、数値に乏しい。全体的には、遠隔地の銀行間で為替を取り組むコルレス取引関係のもの

が多い。定期預金関係はみあたらない。貸付関係の史料からその具体的な内容を知るとは難しい。つまり堺銀行が、どのような営業活動をしていたのかは、簡単にはわからないということである。しかし、いずれの取引でも断片的ながら取引者の氏名がわかる。これを丁寧な追いつき、前述した に属する史料と併せてみれば、発起人 経営者 大口株主 当座取引者 貸付先 為替振出人といった人物の重複性とその連鎖を解き明かすことができるかもしれない。これが実現すれば、堺銀行の人的・地縁的性格が鮮明になるばかりか、明治期における銀行のイメージを変え兼ねない重要な成果になるだろう。

各地銀行とのネットワークを示す史料

「堺銀行文書」には、堺銀行から他行宛て、また他行から堺銀行宛ての書簡や葉書、電報の類が豊富に含まれている。それらは、役職者等異動挨拶、移転連絡、印鑑・手形見本送付、為替取引開始依頼、取立手形照会、電信略号変更連絡など様々である。これらの背後には、コルレスなど何等かの取引関係があるのだが、取引そのものを示す通知類は乏しい。しかし堺銀行がどういう世界で生きていたのかを知るには、格好の材料である。堺銀行の営業期間中に連絡のあった銀行群を表三に整理してみた。清国安東県の第一銀行支店から熊本九州商業銀行まで広範囲であり、大阪南部に閉じこもった銀行ではなかった。さすがに大阪、奈良、和歌山、そして瀬戸内の関係銀行は多く、活発な取引を窺わせる。面白いと思ったのは、石川県小松市の米谷銀行である。同行は、北前船問屋の系譜をもつ米谷家が経営する銀行であり、頭取の米谷半平は堺銀行が増資したさいに株主にもなっている。北前船航路とこれら銀行群を重ねてみるのも興味ある作業であろう。いずれにせよこのネットワークは、単に堺銀行の広域的な金融取引を示しているのではない。堺銀行が堺金融を代表していると考えれば、同行を通じた堺経済界の活動の範囲を示しているのである。ネットワークの広がりを示す豊富で多様な通知類を丹念に追うことにより堺経済界の展開もまた見えてくるのである。ところで表三の銀行の

なかには破綻・合併したのも散見される。被害を最小化するために商業興信所などからの情報収集は重要であった。

「堺銀行文書」の可能性

「堺銀行文書」を用いた堺銀行の研究は、現代に関わるどのような問題を解き明かしていくことになるのであろうか。第一は、堺金融と大阪金融の関係、ひいては周辺経済と大都市経済の関係という問題である。大銀行が集まる大阪市の周辺では、自立した金融圏を構築することは困難である。一方では資金の運用・調達における大阪金融市場への依存他方では大阪系銀行の支店との対抗という二元的な要素が地元銀行の活動を制約する。堺銀行の研究は、明治期においてどのように大阪市と堺市の金融関係が形成されてきたのかを解明する重要な分野である。これは、同時に今日の地方行政の在り方や都市開発問題に繋がっていくことになるだろう。

第二に、現在の金融革新のなかで問われている銀行のあり方に関する問題である。堺銀行における株主や経営者、貸出先や預金者といった相互の関係を究明することは、当時の銀行のリスク管理を解明することに結びつく。なかでも任意解散の直接的な原因となる経営軌道をめぐる株主間・役員間の対立を究明することは非常に重要である。これは根本的には、銀行としての健全性を重視する路線と実業界への積極的な融資を重視する路線との対抗であった。同様の問題は、すべての銀行において、過去から現在まで、大なり小なり繰り返し起きてきているのである。

「堺銀行文書」はこのほかにも多様な可能性をもたらすだろう。可能性を現実にしていく作業が、まさに、これから始まる。多くの方々の活用を願って筆を置きたい。

表二 大阪府内の本店銀行

(明治28年6月末)

銀行名	所在地	資本金(千円)	銀行名	所在地	資本金(千円)
大阪第十三国立銀行	大阪市東区今橋二丁目	500 (500)	(個人)湖亀銀行	大阪市東区備後町	50 (50)
(株)沖立銀行	大阪市東区安土町	500(1,000)	(個人)虎友銀行	大阪市南区長堀橋通	50 (50)
(合資)井上銀行	大阪市東区北浜二丁目	500 (500)	(個人)北村銀行	大島郡蹯尾村	50 (50)
大阪第三十四国立銀行	大阪市東区高麗橋通	375 (375)	(株)島ノ内銀行	大阪市南区笠屋町	30(100)
大阪第三十二国立銀行	大阪市東区淡路町	360 (360)	(合資)大西銀行	堺市甲斐町	30 (30)
大阪第四十八国立銀行	大阪市東区唐物町	300 (300)	(合資)葛城銀行	大阪市南区西清水町	30 (30)
(株)大阪共立銀行	大阪市北区中ノ島	300 (300)	(合資)天満両替店	大阪市北区大工町	30 (30)
大阪第四十二国立銀行	大阪市西区江戸堀南通三丁目	250 (250)	(個人)富岡銀行	大阪市西区幸町通	30 (30)
大阪第五十八国立銀行	大阪市西区北堀江通	250 (250)	(個人)古市銀行	大阪市南区高津町	30 (30)
大阪第三十国立銀行	大阪市東区高麗橋通	250 (250)	(個人)指吸銀行	堺市寺地町	30 (30)
(株)近江銀行	大阪市東区備後町	250 (500)	(株)灘波銀行	西成郡難波村	26 (50)
大阪第七十九国立銀行	大阪市東区本町	200 (200)	(株)天満銀行	大阪市北区天満橋筋	25(100)
大阪第二十一国立銀行	大阪市東区南久寶寺町	200 (200)	(株)中立貯蓄銀行	大阪市南区玉屋町	25 (50)
(株)堺銀行	堺市甲斐町	176 (300)	(株)茨木銀行	島下郡茨木村	25 (50)
大阪第三十六国立銀行	大阪市東区北浜二丁目	170 (170)	(株)堺共立銀行	堺市宿屋町	25 (50)
小西銀行(合資)	大阪市東区伏見町	150 (150)	(株)木津銀行	西成郡木津村	22 (50)
(株)大阪明治銀行	大阪市南区安堂寺橋通	150 (300)	(合資)岡田銀行	日根郡西信達村	21 (21)
大阪第七十三国立銀行	大阪市西区北堀江一番丁	140 (140)	(合資)富田林銀行	石川郡富田林村	21 (21)
(株)日本貯金銀行	大阪市東区淡路町	125 (500)	(個人)岡田銀行	丹南郡中野村	20 (20)
(株)積善同盟銀行	大阪市東区今橋	125 (500)	(株)上郷銀行	日根郡上ノ郷村	15 (15)
岸和田第五十一国立銀行	南都岸和田町	100 (100)	(株)有魚貯蓄銀行	大阪市西区京町	15 (30)
(株)岸和田銀行	南都岸和田町	100 (100)	(株)摂津貯蓄銀行	西成郡難波村	14 (50)
(株)大阪銀行	大阪市東区南本町	100 (200)	(株)玉造銀行	東成郡玉造村	13 (50)
大阪興業銀行(株)	大阪市北区安治川通	100 (100)	(株)貯金銀行	大阪市東区備後町	12.5 (50)
(合名)虎屋銀行	大阪市南区順慶町通	100 (100)	(株)堺貯蓄銀行	堺市甲斐町	12.5 (50)
(合資)有魚銀行	大阪市西区京町堀上通	100 (100)	(株)平野銀行	住吉郡平野郷町	12.5 (50)
(合資)加島銀行	大阪市西区京町土佐堀通	100 (100)	(株)河内銀行	茨田郡牧方村	12.5 (50)
(合資)大阪清水銀行	大阪市西区南堀江通	100 (100)	(株)天王寺銀行	東成郡天王寺村	12.5 (50)
(合資)逸身銀行	大阪市東区備後町	100 (100)	(個人)鹿喰銀行	堺市南旅籠町	10 (10)
(個人)沐原銀行	大阪市東区安土町	100 (100)	(個人)信貴銀行	南都貝塚町	10 (10)
(株)大阪商業銀行	大阪市東区博労町	90 (300)	(株)岸和田貯蓄銀行	南都岸和田町	7.5 (30)
別途(合資)	堺市宿屋町	75 (75)	(株)高槻貯蓄銀行	島上郡高槻町	7.5 (30)
大阪割引(株)	大阪市東区博労町	67.4 (70)	(株)平野貯蓄銀行	住吉郡平野郷町	7.5 (30)
(個人)川上銀行	大阪市東区備後町	60 (60)			
(個人)小田銀行	大阪市西区新町通	60 (60)			
(株)大阪貯蓄銀行	大阪市東区伏見町	50 (100)			
(個人)谷村銀行	大阪市東区農人橋二丁目	50 (50)			

注記: (株)は株式会社、(合名)は合名会社、(合資)は合資会社、(個人)は個人経営
 資本金は払込資本金、()内は公称資本金。
 (個)住友銀行の設立は明治28年9月のため、掲載されていない。
 所在地名は当時のもの。

資料:『第1回銀行総覧』(明治29年1月)を基礎に『現代日本産業発達史 第26巻 銀行』巻末付録、東京銀行協会『本邦銀行変遷史』(平成10年)を参照して作成。

表一 堺銀行主要事項年表

明治25年11月27日
 設立発起人により「株式会社堺銀行定款」をまとめる。「存立時期八満二十ヶ年」(第三條)名称は「株式会社堺銀行」とし堺市中之町三番屋敷に設置(第四條)、資本金10万円、株式数2千株、1株額面50円(第五條)など。

明治25年12月2日
 「株式会社堺銀行設立御願」を大阪府知事山田信道あてに提出。同月17日付で認許。設立発起人は泉谷九兵衛(堺市)、泉谷徳蔵(同)、西野真太郎(和泉)、太田平次(河内)、太田平七郎(同)、河盛利兵衛(堺市)、河盛勘次郎(同)、金田伊兵衛(堺市)、吉村三三郎(河内)、中橋和之(大阪府)、前川迪徳(大和)、藤本清七(大阪府)、北村六右衛門(和泉)、木谷七平(和泉)、日置善作(河内)、杉山長一郎(河内)の16名。

明治25年12月23日
 株主総会を開催、定款を定め、役員を選出。頭取:太田平次、取締役:前川迪徳、同:藤本清七、同:河盛利兵衛、同:日置善作、監査役:木谷七平、同:中橋和之、同:吉村三三郎。

明治25年12月28日
 開設場所を堺市甲斐町三拾貳番屋敷に変更する旨届出。

明治26年1月6日
 株式会社堺銀行開業。

明治26年7月5日
 第1期株主総会開催、富田林出張店(大阪府南河内郡)の設置を決議。

明治27年1月22日
 株主総会開催、資本金30万円、株式数6千株への増資を決議。

明治27年12月16日
 本店新築により堺市甲斐町三拾壹番屋敷に移転。

明治28年9月9日
 大阪市東区南本町4丁目に新設した大阪支店が開業。

明治29年1月12日
 株主総会開催、資本金60万円、株式数1万2千株への増資を決議。

明治35年2月5日
 大阪府泉北郡東陶器村に新設した福田出張所が開業。

明治35年7月20日
 株主総会開催、大阪支店の廃止を決議。

明治37年1月30日
 株主総会開催、資本金40万円、株式数8千株に減資し、これにより損失金を補填する旨決議。

明治44年6月24日
 臨時株主総会を開催し任意解散を決議。7月7日付けで大阪府知事高崎親章あて届出。

明治45年1月28日
 清算は円滑に進み、終了。

資料:『会議決議録』、『決議録』第1号、『第壹回半季實際考課状』(明治26年上半年)、「株式会社堺銀行」(『堺市史史料』139所収)などにより作成。

表三 「堺銀行文書」に登場する銀行群

()内は所在地、地名当時

[清国]	富田林銀行柏原支店	日置銀行(西牟婁郡日置村)
第一銀行安東県出張所	富田林銀行長野支店	橋本銀行(伊都郡橋本町)
[北海道]	八尾銀行(中河内郡八尾村)	北山銀行新宮支店
二十銀行小樽支店	五十一銀行(泉南郡岸和田町)	[兵庫県]
[青森]	三林銀行本店(泉北郡南池田村)	姫路銀行(姫路市)
弘前銀行青森支店	三林銀行伯太出張所	淡路銀行(津名郡洲本町)
[秋田県]	住友銀行本店(東区北浜)	萬里銀行(姫路市)
四十八銀行大館支店	住友銀行船場支店	灘商業銀行(武庫郡御影町)
[千葉県]	住友銀行川口支店	姫路商業銀行(姫路市)
川崎銀行千葉支店	住友銀行道頓堀支店	第六十五銀行(神戸市)
[東京府]	住友銀行中之島支店	明石銀行(明石郡明石町)
第三銀行(日本橋区小舟町)	山口銀行本店(東区唐物町)	赤穂実業銀行(赤穂郡赤穂町)
二十銀行(日本橋区伊勢町)	山口銀行南支店	淡路実業銀行(津名郡洲本町)
丁酉銀行(京橋区宗十郎町)	第一銀行大阪支店	[岡山県]
八十四銀行(京橋区壺岸島浜町)	第三銀行大阪支店	中備銀行(都窪郡早島町)
第百銀行(日本橋区萬町)	第三銀行堀江支店	山陽商業銀行本店(岡山市)
川崎銀行本店(日本橋区檜物町)	四日市銀行大阪支店	山陽商業銀行笠岡支店
川崎銀行富沢町支店	[奈良県]	山陽商業銀行西大寺支店
[山梨県]	畝傍銀行本店(高市郡今井町)	[広島県]
若尾銀行(甲府市)	畝傍銀行田原本支店	沢原銀行本店(呉市)
[石川県]	畝傍銀行高田支店	沢原銀行二川出張所
米谷銀行(小松市)	畝傍銀行高野山支店	広島銀行本店(広島市)
明治銀行金沢支店	丹波市銀行帯解支店	広島銀行呉支店
[静岡県]	六十八銀行奈良支店	広島銀行江田島出張所
浜松信用銀行(浜名郡浜松町)	六十八銀行五條支店	西原銀行(尾道市)
東遠銀行池尻支店	六十八銀行御所支店	[山口県]
東遠銀行江尻支店	六十八銀行三輪支店	百十銀行本店(下関市)
[愛知県]	六十八銀行高田支店	百十銀行西支店
伊藤銀行(名古屋市)	六十八銀行櫻井支店	[香川県]
岡崎銀行(額田郡岡崎町)	六十八銀行松山出張所	高松百十四銀行丸亀支店
明治銀行(名古屋市)	三十四銀行奈良支店	[愛媛県]
愛知銀行本店(名古屋市)	[和歌山県]	伊予農業銀行(松山市)
愛知銀行岡崎支店	那賀銀行(那賀郡名手村)	[高知県]
亀崎銀行岡崎出張所	鼎立銀行本店(西牟婁郡串本町)	高知銀行本店(高知市)
第一銀行名古屋支店	鼎立銀行古座支店	高知銀行須崎支店
[三重県]	鼎立銀行和深支店	[福岡県]
北山銀行(南牟婁郡木本町)	和歌山銀行(和歌山市)	三瀬銀行(三瀬郡大川町)
四日市銀行(四日市市)	伊都銀行本店(伊都郡妙寺村)	住友銀行門司支店
伊賀上野銀行(阿山郡上野町)	伊都銀行名倉支店	住友銀行博多支店
桑名銀行(桑名郡桑名町)	四十三銀行本店(和歌山市)	住友銀行若松支店
三重銀行本店(宇治山田市)	四十三銀行田辺支店	[熊本県]
三重銀行鳥羽支店	四十三銀行日方支店	九州商業銀行(熊本市)
[京都府]	四十三銀行湯浅支店	
京都銀行(下京区烏丸通)	四十三銀行橋本支店	
起業銀行(下京区油小路御前通)	四十三銀行南部支店	
[大阪府]	四十三銀行御坊支店	
大阪農工銀行(西区立売堀北通)	四十三銀行塩津支店	
貝塚銀行(泉南郡貝塚町)	四十三銀行箕島支店	
近江銀行(東区備後町)	四十三銀行粉河支店	



堺銀行文書

本文151ページ